

インフルエンザワクチン説明書 2021-22年 第1版 やぐち内科クリニック

※1回3300円（3才～成人）、3000円（0才6ヶ月～2才11ヶ月）、税込、2回目も同額

※新型コロナウイルスワクチン接種とは、どちらが先でも2週間（中13日）あける必要があります。

※院内で体温は測れません！（自宅で測ってから来院下さい）筆記具も貸出不可です。

【今年度（2021-22年秋冬シーズン）は大きなルール変更あり！ほとんどの方は要予約】

予約不要の方 →順番予約システムをご利用下さい。

・船橋市、提携企業などの当院で使用できる接種券をお持ちの方

・当院で1回目のインフルエンザワクチン接種を行った2回目の方

※順番予約システム→スマホ・パソコンからは<https://naika.atat.jp> 電話からTEL1860-345-8080-70

上記以外の方は接種の予約が必要です。（順番予約ではありません）

当院ホームページ <https://naika.ac> からインフルエンザワクチン接種のページへお進み下さい。予約サイトは「インフルエンザワクチン接種」と「新型コロナウイルスワクチン接種」の時間帯がありますので、項目をお間違えの無いように選択して下さい。予約はかかりつけの方に限ります。

※ガム、アメなどは口から出してから診察室にお入りください。（誤嚥の可能性があり危険です。）

※予診票ダウンロードは <https://naika.ac> から。（又は「やぐち内科 船橋」で検索。「やぐち」は“ひらがな”）

※体調（具合）の悪い方は接種できません。予診票に「今日、普段と違って体の具合が悪い」旨を書かれている方には接種していません。ワクチン接種は体調の良い時に行ってください。（カゼの初期などの体調不良時に他院で接種可と言われても当院では不可です。診察・相談されても回答は不変です。）

※予診票に体調のことを記載せず診察時にはじめて「具合が悪い」旨を申し出られた場合、および子どもが嫌がる等の自己都合の場合は接種が中止となっても規定の診察料を頂きますのでご注意ください。

※接種後30分は特に体調の変化に気をつけて下さい。また、接種後24時間は副反応の出現に注意してください。…副反応の項（裏面）を必ずお読みください。

本人（又は保護者）の同意があれば接種可能…「カゼはだいたい良くなった」「普段から鼻炎があり鼻水が多い」「前から少しだけセキが出る」等の軽い症状はあるものの体調は良好な方。高血圧や高脂血症などの慢性疾患で内服中の方。急性期を過ぎたケガ。（但し心配な場合は接種を控えてください。）

◆◆◆ インフルエンザワクチンを接種できない方 ◆◆◆

普段と違って「昨晚からセキが出る」「今朝からのどが痛い」「昨日から黄色い鼻水が出る」等のカゼの初期と思われる方。体調が悪い方。ある一定の確率で起こり得る副反応（裏面参照）の出現が容認できない方。ワクチン接種を希望されない方。明らかな発熱（37.5℃以上）を呈している方。重篤な急性疾患にかかっている方。明らかに気管支喘息発作をおこしている方。ワクチンでアレルギー反応をおこしたことがある方。重度免疫不全の方。けいれん発作を起こしている方。その他、医師の判断で予防接種を行なうことが不適当な状態にある方。

◆◆◆ インフルエンザワクチン接種回数および間隔 ◆◆◆

本年度のインフルエンザワクチンにはA型2種類、B型2種類のウイルス株が含まれています。

年齢	1回接種量	接種回数
0歳6ヶ月～2歳	0.25mL	2回（2～4週間の間隔で。4週以上あけても良い。）
3歳～12歳	0.5mL	2回（2～4週間の間隔で。4週以上あけても良い。）
13歳～64歳	0.5mL	1回または2回（1～4週間の間隔で。4週以上あけても良い。）
65歳以上	0.5mL	1回

※小学生までは接種時に保護者同伴が必要です。高校生（相当）までは予診票下部に保護者のサイン（同意）が必要です。

◆◆◆ インフルエンザとは ◆◆◆

インフルエンザは発熱、全身倦怠感、筋肉痛、のどの痛み、時に腹痛・嘔気などの症状がでるウイルス感染症です。インフルエンザウイルスは大きく分けるとA型、B型の二種類があります。流行期は毎冬で感染力は非常に強く、潜伏期は1～5日で、高熱は2～3日間（長い人は7日間程）続きます。多くの人は無治療でも1～2週間で軽快しますが、抵抗力の弱い方は重症化することがあります。いわゆる“カゼ”とは原因となるウイルスが異なり、全く違う病気です。

◆◆◆ ワクチンの効果 ◆◆◆

ワクチンを接種することにより、インフルエンザウイルス感染症にかかりにくい、あるいはかかっても軽くすむ確率が高くなると言われています。それにより、インフルエンザによる重症化や死亡を予防する効果が期待されます。（ワクチン接種をしてもインフルエンザにかかる事はあります。）特に小児では抗体（抵抗力）が出来る確率が20～30%といわれており、成人より効果が劣る場合があるようです。ワクチンの効果持続は個人差がありますが接種後2週間より約4～5ヶ月間とされています。

◆◆◆ インフルエンザワクチン接種でみられる副反応 ◆◆◆

・多い副反応は注射部位の熱感、発赤、疼痛、しびれ、硬結、皮下出血です。ほとんどは3～7日程度の経過観察で治ります。まれに1ヶ月程度、接種部位の鈍痛が続くことがあります。但し、発赤が肘を越えて広がったり、ただれた場合は受診してください。

※注射部位が腫れやすい方、腫れた方は氷などで接種部位を冷やして下さい。（冷やし過ぎに注意）

・予防接種後に発熱、悪寒、発疹、頭痛、めまい、倦怠感、一過性の意識消失、リンパ節腫脹、嘔気・嘔吐、下痢、関節痛・筋肉痛などの症状が出ることがありますが、通常2～3日で消失します。症状が強かったり、不安に感じたときは医師の診察を必ず受けて下さい。

・きわめてまれに接種後30分以内に呼吸困難、咳こみ、ぜんそく様発作（ヒューヒューゼイゼイ）、じんま疹が出現する事があります。これらの症状はショック、アナフィラキシー様症状と言われ、放置すると生命の危険性がありますので、直ちに医師または看護師に申し出てください。

・その他のまれな副反応：急性散在性脳脊髄炎、ギランバレー症候群、けいれん、肝障害、黄疸等。

・注射時に安静を保てない方（幼児など）は、まれに注射手技を失敗することがあります。

※尚、副反応による健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた人または家族が独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うこととなります。

〔副反応とは？：ワクチン接種後ある一定期間内に起きたすべての有害事象をさします。まれな副反応の中にはワクチン接種がその原因であると科学的に証明されていないものも含まれます。〕

◆◆◆ 妊婦・授乳婦へのインフルエンザワクチン接種 ◆◆◆

・当院では妊婦にも希望および承諾があれば接種を行っています。（最近では妊婦がインフルエンザにかかると重症化する例が多く、優先して接種すべきと考えられています。）・産婦人科診療ガイドライン産科編2014には「チメロサル含有ワクチンと懸念されていた自閉症との関連は最近否定された。したがって、チメロサル含有ワクチンを妊婦に投与しても差し支えない。（抜粋）」と記載されています。・授乳婦へのワクチン接種は可能です。（ワクチン成分は乳児に影響ありません。）

◆◆◆ その他の注意事項 ◆◆◆

・当日の入浴は接種後30分以上経過すれば差し支えありません。接種部位を強くこすったりもんだりしないでください。・接種当日は飲酒や過激なスポーツは控えてください。・「みずぼうそう」や「はしか」などにかかった後は1ヶ月の間をおいて接種してください。

（かかった人と接触したものの、本人が発症していない場合は接種可能ですが、心配な場合は3～4週の間をあけてください。）・軽症の卵アレルギーや鶏肉アレルギーの人は、ほとんどの場合接種できますが、医師と良く相談して下さい。・他のワクチンと同時接種も可能（新型コロナウイルスワクチン、HPVワクチンをのぞく）です。

◆◆◆ インフルエンザにかかってしまったら ◆◆◆

ワクチンを接種したら絶対にインフルエンザにかからない、という事はありません。（ワクチンの接種目的は重症化を防ぐことにあります。）インフルエンザの症状がありましたら医療機関を受診してください。